



山田和樹が 次の時代にのこしたい 日本の音楽

鴨長明原作／柴田南雄作曲

ゆく河の流れは絶えずして

柴田南雄 作曲

- ◆《ディアフォニア》～管弦楽のための (1979)
- ◆シアターピース《追分節考》(1973)
- ◆交響曲《ゆく河の流れは絶えずして》(1975)

指揮：山田和樹

管弦楽：日本フィルハーモニー交響楽団

合唱：東京混声合唱団

武蔵野音楽大学合唱団

(合唱指揮：山田茂／葉山文昭／片山みゆき)

尺八：関一郎

2016

11.7 月 19:00 (開場 18:20)

マエストロのプレトーク(18:30)

サントリーホール

入場料 S ¥7,000 / A ¥6,000 / B ¥5,000 / C ¥4,000 / 学生席 ¥1,000 (25歳以下100枚限定)

※東京コンサートでご予約の上、当日会場にて学生証をご提示下さい

主催 | 柴田南雄生誕100年・没後20年記念演奏会実行委員会

[発起人：山田和樹(代表)／池辺晋一郎／一柳慧／海老沢敏／小澤征爾／佐野光司／
田中信昭／堤剛／徳丸吉彦／平井俊邦／福井直敬／船山隆／前田昭雄／湯浅譲二]

サントリーホール30周年記念参加公演 / 日本フィルハーモニー交響楽団・東京混声合唱団・創立60周年特別演奏会



Kazuki Yamada
& Japan Phil

柴田南雄夫人

柴田 純子

SUMIKO SHIBATA

対談

山田 和樹

KAZUKI YAMADA



変な話ですけど、血液型ってなんでしょう。僕の予想だと、柴田南雄先生は絶対A型だと思うんですけども、どうでしょう？

いや、それがB型なんですわ。

そうなんですか！

うちで3人子供が年子でいるんですけど、全員B型なんです。

奥様は？

私はO型。

そうなんですわ。なんかもう、イメージからすると、もちろん、奥様の関連が表れるんでしょうけれど、いろんな楽譜とか資料とかすごく整理されているって、たぶんさっさと、ご夫婦でA型なんだろうと、勝手に思っておりました(笑)。ところで、先生の多くの作品が、奥様と一緒に作られてるじゃないですか。シアターピースだとか。

はい。

曲を作られて譜面にするのは、南雄先生。それで構成というんですか、そういうのを奥様が考えられて、という、そういう曲作りの過程で喧嘩とかあるんですか？

いえ、主人はとにかく、威張って言うのには、「自分は作曲の職人だから、どんなものを持ってきたって、曲はつけられる」って、それは常々、自慢の種だったんですけども。ですから、私

は台本を作る時に、なんでも自分の好きなものを寄せ集めて、それで勝手放題に作って、「はい、次はこれ」って選んで。

ハハハ(笑)

ゆく河の流れは絶えずして

これは名古屋で初演なんですわ。

ええ。昭和50年の記念というので、中日新聞が委嘱して。それで、名古屋フィルが名古屋と東京で...数年たって、都賀さんでした。それから、アソウ合唱団と言うのがついて、カーネギーホールで演奏して。その時は、私の高校の同級生がアマチュア合唱団で歌っていて、電話かけてきてましてね、「なんで同じ小節に4拍子と3拍子が混じっているの？」

ハハハ(笑)

そんな文句は、主人に言って欲しいと言って笑ったんですけど(笑)。今年は生誕100年でらっしゃるといふこと、没後20年ということもありますけれども、この機会に、企画させていただいて、多くの方のご協力を元に、なんとか...なるかなあ、と(笑)。まだこれからチケットを売るといふ大困難が待っておりますけれども(笑)。なんか盛り上げていければと思っています。ありがとうございます。

今回びっくりしたのは、たまたま僕のスケジュールのこともあって、11月7日になったんですけども、この演奏会がね。

はい。

蓋を開けてみてびっくり、この《ゆく河の流れは〜》の初演が11月7日。

同じ日！(笑)

こんなこと、あるのかな、という偶然がね、何かこう、すごく使命感をまた、持ったんですけども...

過分節考

初演の当時は、やっぱり戸惑いがあったという話なんですわ。

一応、採譜はして、譜面はあるんですけども...最初の練習の時に、あれは、軽井沢のとなりの、過分の、過分節を伝承していらっしゃる方がいらして、その方のテープをみんなで聴いて(笑)。それを東混(東京混声合唱団)の方々が真似して歌って。

あ〜、譜面は見なくて、こう(耳に手を当てて)。

そういう練習は皆さんやったことがないので、大変戸惑われたんだそうです。だから、すぐに、レパートリーになったというのではなく、少し間を置いてから、東混の十八番になったという話は聞いたことがあります。それから年

がら年中です、もう(笑)。何回って数えているのかな。数え切れないほどやっています。

ええ。2000回を超えたところで、数えるのをやめたって(笑)

2000回を超えたのは、いつ頃ですか？

1995年くらいだったですね。

それで2000回くらいだった(笑)。そうしたらもう、3000回は超えているんじゃないでしょうか。僕も、本当に恥ずかしいんですけども、《過分節考》みたいな作品があるということも、東混を指揮するまで存じ上げなかったものから。これは絶対、多くの人に知って欲しいなと思って。そういう意味も込めて、今回も《過分節考》をプログラムに入れて。

ありがとうございます。

それでオーケストラだけの《ディアフォニア》と組ませて、それで、物語が作られる、と。《ディアフォニア》というの、僕が生まれた年に、初演されているものですから、それで、山田一雄先生が再演されていたりとか、そういうご縁を感じながら。

ありがとうございます。結局聴いてくださる方があって、演奏してくださる方で、ちゃんとした響きになるといふところで、初めて完成するんだ、ということをしよっちゃん言っていましたから。

山田和樹が次代につなぐ〜ゆく河の流れは絶えずして〜



柴田南雄

しばた みねお

1916年東京生まれ。東京帝国大学理学部植物学科、同文学部美学美術史学科卒業。作曲を譜井三郎に師事。1946年「新声会」を入野義朗らとともに発足、作品を発表し始める。ロマン主義的作風から、12音技法やミュージック・セリエル、不確定性の前衛的な作風、日本民謡と民族芸能を根拠にしたシアター・ピースなどを生涯現役で制作。1948年「子供のための音楽教室」開設に貢献したほか、桐朋音楽大学、お茶の水女子大学、東京芸術大学、放送大学などで教鞭をとる。1957年吉田秀和らと始めた「二十世紀音楽研究所」で国際的な視野をもった啓蒙活動に尽力するなど、放送、新聞、音楽ジャーナリズムを通して洋の東西を問わない洞察と知的利達にあふれた評論活動を展開した。1973年尾高賞、82年サントリー音楽賞受賞。92年文化功労者に選ばれる。1996年2月2日永眠。



山田和樹

やまだ かずき

1979年神奈川県生まれ。東京藝術大学指揮科で松尾葉子・小林研一郎の両氏に師事。

2009年にプザンソン国際指揮者コンクールで優勝後、破竹の勢いでヨーロッパを中心にその活動の場を広げている。横浜文化賞文化・芸術奨励賞、出光音楽賞受賞、遠近噴雄音楽基金音楽賞、藤巻秀雄メモリアル基金賞、文化庁芸術祭賞音楽部門新人賞受賞。現在、スイス・ロマン管首席客演指揮者、モンテカルロ・フィル首席客演指揮者(9月から芸術監督兼音楽監督)、日本フィル正指揮者、横浜シンフォニエッタ音楽監督、仙台フィルミュージック・パートナー、オーケストラ・アンサンブル金沢ミュージック・パートナー、東京混声合唱団音楽監督。音楽の友に『私の音楽論考』、共同通信社に『世界を翔るタクト』連載中。ベルリン在住。

助成 | 公益財団法人朝日新聞文化財団 / 公益財団法人三菱UFJ信託芸術文化財団 / 公益財団法人野村財団

協賛 | サントリーホールディングス株式会社

協力 | サントリーホール / 日本フィルハーモニー交響楽団 / 東京混声合唱団 / 武蔵野音楽大学



- 前売りチケット
- チケットぴあ 0570-02-9999 <http://t.pia.jp> (Pコード 293-491)
 - ローソンチケット 0570-000-407 <http://l-tike.com>
 - サントリーホール・チケットセンター 0570-55-0017
 - 東京文化会館チケットセンター 03-5685-0650
 - 日本フィル・サービスセンター 03-5378-5911 (平日10時~17時)

お問合せ・予約

東京コンサーツ
03-3200-9755
<http://tokyo-concerts.co.jp>
ホームページで予約できます。

